

各 位

株式会社アルプス技研
(コード番号:4641 東証二部)
総務部 広報グループ

平成 16 年 12 月期中間決算(平成 16 年 1 月 1 日から平成 16 年 6 月 30 日まで)について

株式会社アルプス技研の平成 16 年 12 月期中間決算(平成 16 年 1 月 1 日から平成 16 年 6 月 30 日まで)のうち、業績の概要につきまして下記ご説明申し上げます。

【連 結】

(1) 連結決算の主要数値

売上高	9,506 百万円	(前年同期比 +1,532 百万円、 +19.2%)
営業利益	703 百万円	(前年同期比 +409 百万円、 +139.2%)
経常利益	734 百万円	(前年同期比 +419 百万円、 +132.8%)
中間(当期)純利益	375 百万円	(前年同期比 +314 百万円、 +511.9%)

メカトロニクス設計を主軸とする人材ビジネスを核にしております当企業集団にとりまして、今中間期は、日本の製造業の復活を背景に 2 割近い成長を遂げ、その結果営業利益および経常利益は前年同期の約 2.3 倍、また中間(当期)純利益は前年同期の約 6 倍となり、当社連結中間期決算開始(平成 13 年 12 月期)以来、売上高、営業利益、経常利益、中間(当期)純利益ともに最高額となりました。

(2) 事業別売上高

派遣事業	5,483 百万円	(前年同期比 +1,098 百万円、 +25.0%)
請負事業	3,990 百万円	(前年同期比 +637 百万円、 +19.0%)
製・商品販売事業	26 百万円	(前年同期比 201 百万円、 88.2%)
教育事業	5 百万円	(前年同期比 1 百万円、 24.3%)

事業別では設計技術者中心の派遣事業が好調で 25%の増収、請負事業は 19%の増収でありました。(製・商品販売事業の減収は、平成 15 年 3 月 19 日に子会社 1 社を売却したことによる影響です。)各社別では、スリランカと中国(北京)の海外現地法人企業の 2 社を除き、親会社のアルプス技研を含む国内企業 4 社並びに台湾の現地法人企業 1 社はすべて増収増益となっております。

【個 別】(株式会社アルプス技研)

(1) 個別決算の主要数値

売上高	8,285 百万円	(前年同期比 +1,437 百万円、 +21.0%)
営業利益	643 百万円	(前年同期比 +301 百万円、 +88.1%)
経常利益	677 百万円	(前年同期比 +315 百万円、 +87.2%)
中間(当期)純利益	279 百万円	(前年同期比 +117 百万円、 +72.0%)

(2) 事業別売上高

派遣事業	5,116 百万円	(前年同期比 +1,010 百万円、 +24.6%)
請負事業	3,165 百万円	(前年同期比 +426 百万円、 +15.5%)

当社(アルプス技研)の今中間期業績は、主要顧客であるの製造業における新製品開発の活発化を受け、設計技術者に対する派遣要請が堅調で、派遣事業は前年同期比で1,010百万円、24.6%の増収となりました。一方請負事業は、昨年7月に業務用ソフト開発事業の再編を行いました結果、同分野に対する売上は減少しましたが、当社のテクノパーク(製造部門)を中心とした「モノづくり」部門の売上が前年同期の3.5倍となり、請負事業の売上も前年同期比で426百万円、15.5%の増収となりました。その結果総売上に占める派遣と請負売上の比率は、前年同期の60.0%：40.0%から61.8%：38.2%と派遣売上の比重が高まりました。

この高い成長を背景に、積極的な営業戦略の展開と経費管理効果により原価率、販管費比率ともに改善され、営業利益、経常利益は前年同期のおよそ9割増となりました。

また子会社の株式会社サイエンスシステムに対する投資効果が計画を下回っており、株式評価損として130百万円を特別損失に計上しましたが、中間(当期)純利益は279百万円(対前年同期比+117百万円、+72.0%)となりました。

《売上高上位100社(総売上の82%)による主要業種別売上》

	売上高(百万円)	前年同期比	構成比(前年同期構成比)
輸送機器	1,513	+25.4%	22.3% (22.1%)
電機機器	2,719	+35.3%	40.1% (36.7%)
精密機器	1,425	+22.1%	21.0% (21.3%)
情報処理	845	0.8%	12.5% (15.6%)
通信(含む機器)	91	32.5%	1.3% (2.5%)

デジタル家電等により半導体関連業界が復活した電機機器業界に対する売上が前年同期比+35.3%、次いで自動車を中心とする輸送機器業界が+25.4%、プリンター等に代表される精密機器業界が+22.1%の売上増となっております。

一方マイナス成長業種は、業務用ソフト開発を中心とした情報処理業が0.8%、通信業(含む機器)は32.5%と言った状況でした。

《派遣の稼働時間、単価、稼働率》

	平均(前年同期)	除く新卒
稼働時間	186H (183H)	187H
単価	3,221円 (3,196円)	3,243円
稼働率	94.7% (93.2%)	98.0%

今年4月に入社した新卒社員の稼働も前年以上に早く、6月末での新卒社員の派遣稼働率は72.6%(前年同月末は69.5%)であり、既存社員を含めた平均稼働率は前年同期より+1.5%の94.7%、派遣稼働時間は+3H/月の186H/月と、製造業における新製品開発の活発化の一躍を担っております。

【平成16年度12月期(平成16年1月1日から平成16年12月31日まで)の業績予想】

平成16年12月期(平成16年1月1日から平成16年12月31日まで)の業績は、マクロ経済環境に不透明感がありますが、当企業集団を取巻く環境に大きな変化は起きないと言う前提の下に、以下のように予想しております。(なお本日付「業績予想の修正に関するお知らせ」もご参照下さい。)

《連結》

売上高	19,800百万円(前年同期比)	+3,125百万円、+18.7%
営業利益	1,380百万円(前年同期比)	+455百万円、+49.2%
経常利益	1,350百万円(前年同期比)	+470百万円、+53.4%
当期純利益	680百万円(前年同期比)	+404百万円、+146.4%

《個別》

売上高	17,200百万円(前年同期比)	+2,771百万円、+19.2%
営業利益	1,260百万円(前年同期比)	+308百万円、+32.4%
経常利益	1,320百万円(前年同期比)	+346百万円、+35.5%
当期純利益	620百万円(前年同期比)	+339百万円、+120.6%

なお配当は、期初予想通り期末に年間配当金としまして1株当たり20.00円を予想しています。

以上